



ホテル デュパレ「Hôtel du Palais」の威風堂々たる正面ゲート。ホテル デュパレは、皇帝ナポレオン3世が皇后ウジェニーのために建てた宮殿をホテルとして改修したものである。ホテルは2011年5月のフランス観光庁より最初に認定された8軒の「PALACE」（うち4軒はパリ）の1つである荣誉に輝いている



ホテル デュパレのオリジナルの館は1903年に焼失してしまったが、その後は第二帝政時代の建物を大きく復元し、堂々たる外観は周辺のランドマークにもなっている



ホテル館内中央にあり、圧倒的な存在感を誇る壮麗なステアケース



筆者 **小原 康裕**
国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。
1974年 Munich Re 入社。
2001年投資顧問会社原健設立、
代表取締役 CEO。
JHRC A、日本ホテルレストランコンサルタント
協会理事。

www.jhrca.com/worldhotel/?cat42
<https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16>

現在、筆者のホームページで
「世界のリーディングホテル」を連載中。
多くの美しい写真と興味深いコメントで、
世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。



ホテルの庭園から望むビアリッツの風景。ビアリッツはヨーロッパの王室や上流社会の静養先として選ばれた華やかな歴史がある



メインダイニング「L'Impératrice」のエンタランス。優雅なヴィラ・ウジェニー「Villa Eugénie」と海を眺める円形オーバルのラ・ロトンド「La Rotonde」があり、総称して「皇后」を意味する「L'Impératrice」の名称を使っている



ホテル・デュパレの正面エンタランス。Napoleonの“N”と皇后 Eugénieの“E”を組み合わせたロゴが見られる



華麗なボールルーム「Salon Imperial Ballroom」



館内奥にある重厚なレセプションデスク



フレンドリーなコンシェルジュデスク

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

Hotel du Palais

ホテル デュパレ「Hôtel du Palais」は、皇帝ナポレオン3世が皇后ウジェニーのために建てた宮殿をホテルとして改修したものである。ホテル デュパレのオリジナルの館は1903年に焼失してしまったが、その後は第二帝政時代の建物を大きく復元し、堂々たる外観は周辺のランドマークにもなっている。ビアリッツはヨーロッパの



ヘッドシェフ Jean-Marie Gautier 氏が腕を振るうダイニング「L'Impératrice」。ここには皇后ウジェニーの肖像画が飾られ、反対側には皇帝ナポレオン3世の肖像画が向き合っている



クラシカルな雰囲気ヴィラ・ウジェニー「Villa Eugénie」



円形オーバルを意味するラ・ロトンド「La Rotonde」。窓側席からは大西洋が望める



スパ施設「Imperial Spa」のジャグジー・リラクゼーションエリア。スパは5階建て3000㎡の広さを誇る



古典的な雰囲気も感じさせるドーム状のプール。スパ施設は「Guerlain」とコラボレーションしたトリートメントが地元のマダムに人気だ



トップスイート「皇后エリザベト」のリビングルーム。オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の皇后は愛称が「シシー」なので「Imperatrice Sissi」と命名されている



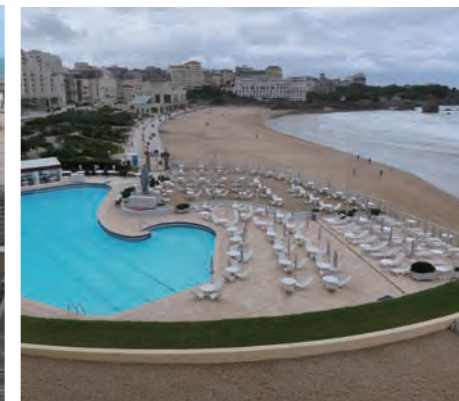
落ち着いた雰囲気のベッドルーム



ゴージャスなバスルーム



スイートに付帯した広大なテラスから大西洋の大海原が望める



テラスから俯瞰するスイミングプールとビアリッツの街並み

王室や上流社会の静養先として選ばれた華やかな歴史があり、ホテルはその中心として1世紀以上に亘りビアリッツの繁栄と栄光を担って来た。2016年現在、フランスには23軒のパラス・ホテルが認定されているが、ホテルデュパレは2011年5月のフランス観光庁より最初に認定された8軒の「PALACE」（うち4軒はパリ）の1つである栄誉に輝いている。

ビアリッツは、スペインにも近い交通の要所であり、多彩な文化の十字路である大西洋岸フレンチバスク地方の中心都市である。観光地としてもリゾート地としても世界的に有名なビアリッツは、ヨーロッパの王室や上流社会の静養先として選ばれた華やかな歴史があり、その美しいビーチや文化遺産などで知られている。また、サンチャゴ・デ・コンポステーラに向かう「巡礼の道」のピレネー山脈越えの起点でもある。

開業当時の家具や調度品で飾られた120室の客室と30室のスイートは、ホテルの庭園やプール、浜辺に面している。今回はトップスイート「皇后エリザベト」を紹介したい。オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の皇后は愛称が「シシー」なので「Imperatrice Sissi」と命名され、付帯した広大なテラスから大西洋の大海原が望める。ヘッドシェフ Jean-Marie Gautier 氏が腕を振るうダイニングは、優雅なヴィラ・ウジェニー「Villa Eugénie」と海を眺める円形オーバルのラ・ロトンド「La Rotonde」があり、総称して「皇后」を意味する「L'Impératrice」の名称を使っている。スパ施設「Imperial Spa」は5階建て3000㎡の広さを誇るもので、「Guerlain」とコラボレーションしたトリートメントは勿論、優雅なプールや専用のラウンジ「Le Salon Eugénie」でゆったりと寛げる。

館内パブリックスペースや客室に「N/E」のロゴが見られるが、これはNapoleonの「N」と皇后Eugénieの「E」を組み合わせたものだ。かつてヴィラ・ウジェニーと呼ばれたこの宮殿から、ナポレオン3世が最愛の皇后ウジェニーへの熱い思いが伝わってくる。ホテルデュパレは、皇帝夫妻が開催した盛大なパーティーのダンスの足音が未だに鳴り響いて来るようだ。